

労働安全衛生／防災

2022年1月に起こした死亡事故を真摯に反省し、あらゆる事業活動において、安全・防災を最優先課題として取り組みます。協力会社員も含め当社事業所内で業務に従事するあらゆる者の安全と健康を守り、無事故・無災害操業を継続していきます。

■ 本質的な安全の向上に向けて

事故対策委員会が死亡事故の原因究明等を行うとともに、工場、研究所で本件事故と同様の事故が発生する危険性を総点検し、対策を講じました。継続して安全対策への投資を進めていきます。また、事故原因の調査後、新たに恒久対策委員会を設置し、安全意識の改革を含む本質的な安全の向上に向けた取り組みを進めています。2022年12月にグループ一丸となって取り組むため、グループ安全理念、グループ安全方針を制定しました。中計2025においても重点施策を定め、確実に取り組んでいきます。

■ 安全文化の醸成

2024年度は、各工場の環境保安部と全社安全推進部を統合し、環境保安部全社安全推進グループとして安全意識の改革とさまざまな施策を深化・拡充し、安全文化の醸成を図ります。

■ リスクアセスメントの強化と人財育成

従来からハード対策や規則類の制定に取り組んできましたが、リスクを低減するためにリスクアセスメントを強化します。適切なリスク抽出と低減策の立案ができる人財の育成に長期的に取り組む、現場力の向上を図ります。

■ 労働災害の状況

労働災害ゼロの達成に向け、リスクアセスメント、相互に

注意しあう職場風土、再発防止策の徹底、より安全な職場環境の達成を主なテーマに活動しています。

2023年度は、従業員の休業災害1件・不不休害10件の他、派遣社員・協力会社員の休業災害2件・不不休害4件が発生しました。

それぞれの発生案件については、なぜなぜ解析^{※1}の手法を使って真の原因を究明し再発防止策を打つとともに、重要な対策については国内外全グループ工場に水平展開しました。

▶ 労働災害度数率^{※2}



▶ 労働災害強度率^{※3}



※1 なぜなぜ解析：ある問題に対してなぜそれが起きたのか原因を見極め、さらにその原因に対して「なぜ？」を問うことを繰り返し、直接原因だけではなく背後にある根本原因を抽出する分析手法

※2 度数率＝(休業災害被災者数)÷(延べ労働時間)×1,000,000
100万労働時間当たりの被災者(当社グループ従業員)の発生頻度を示す数値

※3 強度率＝(労働損失日数)÷(延べ労働時間)×1,000
1,000労働時間当たりの災害の軽重を示す数値

VOICE



重大事故の背後には多くの軽微な事故や不安全状態が潜んでいると言われます。これらを防ぐためには、働く人の心身の健康管理も大切になります。私たち保安主任は、休日・夜間の緊急時に現場の指揮を執るだけでなく、普段からプラントエンジニアの不安や悩み、体調の変化にいち早く気付けるよう話しやすい雰囲気づくりを心掛けています。2010年の死亡事故以来、当社は安全活動に注力してきました。特にここ数年で「安全最優先」が一人ひとりに浸透しつつあると感じますが、安全活動にゴールはありません。今後も自分にできることを常に考え、精一杯取り組んでいきます。

伊田 知哲 生産本部 環境保安部 京都環境保安グループ 保安主任

WEB 2022年1月に発生した死亡事故について >

WEB 安全・防災 >